

福井県立美術館の機能強化に関する基本計画の検討状況について

1 これまでの経緯

令和6年8月 福井県立美術館あり方検討会設置(以降、4回開催)

- ・ 公共施設等総合管理計画に則り、80年程度の使用を目標に現在の建物のリニューアルを目指す方針を決定

令和7年3月 「福井県立美術館のあり方および基本的方向性」としてとりまとめ

令和7年7月 福井県立美術館の機能強化に関する基本計画策定委員会設置
(以降、3回開催)

- ・ 令和6年度策定の基本的方向性を受け、美術館の機能強化に関する基本計画を検討

令和7年11月 基本計画の骨子案をとりまとめ(県議会において説明)
(骨子案概要) 美術館の役割(それに伴う主な改修内容)

- ① 質の高い展示収集・保存等(常設展示設置、収蔵庫拡充)
- ② 創造力豊かな人材育成(クリエイティブスペース設置)
- ③ 美術館をはぐくむ機会の創出(立ち寄りやすい空間演出)

令和7年12月以降

- ・ 基本計画の取りまとめに向け、骨子案に対して県議会からいただいた意見への対応(収蔵庫の効率化、駐車場の確保等)と合わせて概算事業費を試算(約80億円、基本計画策定委託事業者推計)
- ・ 建設資材や労務費など物価高騰の影響もあり、事業費の削減に向けた検討を始めた

2 今後の予定

- ・ 改修を行う範囲(必要な諸室の構成など)、それに伴う事業費を精査
- ・ 令和7年度にあり方の検討を始めた県立歴史博物館を含めて、合理化できる部分(会議室や講堂などの共同化)を検討
- ・ 令和8年9月県議会以降に方向性をお示しする予定

1 事業の状況

令和7年 11月 26日
交 流 文 化 部



(1)入館者数・展覧会等

年度	R4	R5	R6
来館者数	88,677人	89,191人	118,841人
主な展覧会	絵本展、戸田正寿展、 美人画展	北原展、パリ展、富田溪仙展	エジプト展、横山大観展、 菱田春草展

- ・ 毎年3～4回 特別展を開催

(2)貸館事業

- ・ 貸室稼働率 83%(R6 43団体が利用)
- ・ 第1展示室、第2展示室は利用率100%

(3)教育・普及事業

- ・ 学芸員による学校での出前授業 8回160人(R6)
- ・ デッサン等の実技講座 年35回

(4)収蔵品

- ・ 収蔵品数 3,475点(寄託含む)(うち日本画463、洋画509)
- ・ 右記の方針にのっとり、福井県ゆかりの作品を収集
- ・ 収蔵庫の収蔵率が100%超

(作品収集の基本方針)

- ①岡倉天心が創設した日本美術院の関連作品
菱田春草、横山大観など
- ②福井ゆかりで、国際的評価を得た作家作品
岩佐又兵衛、「北荘・北美」「小コレクター
運動」関連作家、小野忠弘、瑛九など

【課題等】

- ・ 利用率が100%となっている展示室があり、県民への貸し出しが困難
- ・ 収蔵庫の収蔵率が100%を超えており、新たな作品受け入れ(寄託・寄贈)が難しい

建物の状況

実技研修棟

1986年 実技研修棟として開館
(既存建物を活用、築年月日不明)

- ・建築の耐震基準が、現行法規に適合していない



本館

1977年 本館開館
1986年 展示室等の増改築
1991年 収蔵庫を増築

(1)建物

- ・外壁の破損、ひび割れ
- ・天井部からの漏水、エントランスホールの床が隆起
- ・設備の老朽化に伴う不具合
- ・学校や団体受け入れ時の飲食・休憩スペースが不足
- ・スロープ等、ユニバーサルデザインに未対応な部分あり

(2)展示スペース

- ・照明器具が古く、蛍光灯を使用
- ・重要文化財を含む日本美術を展示する際のケースの性能不足
(照明、温湿度管理、低反射ガラス等)
- ・壁面、天井、床面の耐荷重の補強が必要

(3)空調設備

- ・ボイラーの人的管理が必要なため、24時間空調管理ができない

【課題等】

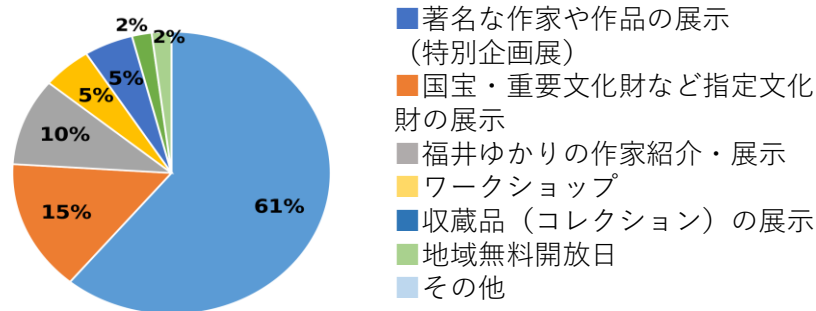
- ・美術作品を守るため、漏水や温度管理など建物・設備の老朽化に伴う不具合への対応が必要
- ・実技研修棟の耐震基準など、現行法規への対応

県民意見の聴取

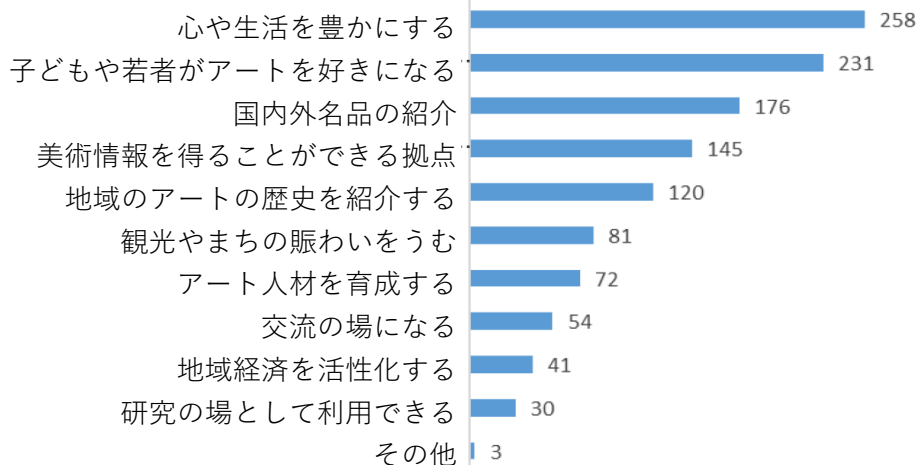
アンケートや個別の意見交換を通じ、美術館の機能強化に関する意見を聴取

アンケート結果(抜粋)

Q 県立美術館に、今後も継続して大切にしてほしいポイントをお選びください。



Q 県立美術館が福井の文化や暮らしにどのように役立つと
うれいしますか。(最大3つ)



個別意見聴取

(美術関係者、クリエイター等)

- ・美術館として「常設展」がないのが問題。企画展を実施している期間以外に美術館に行くきっかけがない。
- ・地元関連の作家の展示コーナーを常設で設けるべき
- ・若手の作家を育てるべき。福井は日本画や日本人の現代作家の歴史があるので「日本人画家の登竜門」を目指しては
- ・美術館に鑑賞に来る人が限られている。鑑賞者を育てて、地方の文化度を高めねばならない
- ・障がい者、子ども等幅広い作家を対象にし多様性を持たせるべき
- ・県内の様々な美術団体と連携し、県内全域への波及を考えるべき

(教員・子ども)

- ・友人と作品について意見交換できる場がほしい
- ・学校で訪問したときに、作品鑑賞会や作品制作のワークショップができるとうい

(アンケート等の意見聴取人数:約1,800人)

- ・美術館として、著名作家の展示や福井県ゆかりの作家の常設コーナーの設置が求められている
- ・子どもや若者がアートを好きになることや、多様な分野の作家育成など、人材育成を進める必要がある
- ・心や生活を豊かにし、まちの賑わいをつくる場所として期待されている

機能強化の方向性

福井に根付くアートを育む文化

- 岩佐又兵衛 福井在住時に傑作を多数制作し、浮世絵の祖となる。息子は福井藩御用絵師として活躍
- 岡倉天心 東京美術学校(現東京藝術大学)の初代校長として横山大観、菱田春草らを輩出
- 北荘・北美 現代美術作家や美術評論家等を招いて毎年講習会を開催。日本を代表する多くの現代美術作家を福井から輩出
- 小ルカ-運動 デビュー前の作家の作品を購入し、作品制作を支援
- 越前和紙 横山大観、富田溪仙、竹内栖鳳などに和紙を提供し、芸術制作を支える。

県立美術館設置(S52) 文化芸術基本法等の改正(H29)

福井県文化振興プラン(R6.4)

県民の意見

「多様な主体とともに本県の美術活動を活性化」(仮)

目指す姿

県民や作家、教育機関など多様な主体とともに、誰もが美術に触れ合い、参加する機会をつくることにより
本県の美術活動を活性化することを目指します。

果たす
役割

本県美術文化の継承と、
質の高い展示・収集・保存

アートを介した
創造力豊かな人材の育成

誰もがアートを身近に感じ、
一緒に美術館を創る
機会の創出

取組み

- ・近世近代から現代にいたる本県ゆかりの作品収集を継続し、常設展示
- ・収蔵品の適切な管理・オープン化による収蔵品の活用等
- ・市町美術館や民間美術館との連携企画などネットワークづくり
- ・県内美術団体、美術活動家の相談対応など活動を応援

- ・館内での対話型鑑賞会、ワークショップ開催など、学校と連携した児童・生徒の美術学習充実
- ・10～20代の若手アーティスト、障がいのあるアーティストなど多様な展示
- ・学生や若手アーティストなどが一緒にクリエイティブ活動を行う機会の創出

- ・民間や地域の美術団体など多様な主体と連携した企画展の開催
- ・アートコミュニケーターと連携した県民向けの鑑賞会実施
- ・無料空間におけるアート体感など立ち寄りやすい雰囲気演出
- ・デジタル化した美術資料による出前授業、オンライン解説など、新技術の活用

施設改修の内容

- 本館は県公共施設等総合管理計画に基づき、予防的な修繕等を行い、80年程度の使用を目指す。
- ひび割れや漏水対策、空調設備の更新など必要な改修に加え、目指す姿を実現するための機能強化を実施
- 耐震基準を満たさない実技研修棟については、建て替えまたは改修を検討

役割	取り組み	改修の内容
質の高い展示 収集、保存等	近世近代から現代にいたる本県 の名作を常設展示 収蔵品の適切な管理・オープン 化による収蔵品の活用等	国際的に活躍する本県ゆかりの作家作品を 常設展示できるコーナーを新設 実技研修棟の活用等により収蔵スペース拡充 収蔵品のオープン化等収蔵品の活用  常設展示スペース
創造力豊かな 人材育成	若手や障がいのあるアーティスト など多様な展示 館内でのワークショップ開催など、 児童・生徒の美術学習充実 子どもや若手アーティストなどがクリ エイティブ活動を行う機会を創出	実技研修棟の活用等による展示スペースの拡充 多様な展示に対応可能な展示スペースへの再構築 ワークショップ開催可能な クリエイティブスペース・コミュニティスペース を新設  クリエイティブスペース(新設)
美術館をはぐく む機会の創出	民間、地域団体など多様な主体と 連携した企画展の開催 無料空間におけるアート体感など、 立ち寄りやすい雰囲気演出 デジタル化した美術資料による出前 授業オンライン解説など、新技術を 活用した展覧会の開催	多様な展示に対応可能な展示スペースへの再構築(再掲) 子どもから大人まで快適なユニバーサルデザインの導入 エントランスホール、屋上空間等を活用し 立ち寄りやすい空間を整備 デジタルアーカイブ化した資料や図録、 美術書を閲覧できるスペースを整備  資料閲覧コーナー

スケジュール等

【今後のスケジュール】

○R8年度から基本設計等を順次進め、令和12年度以降のオープンを目指す。

○改修後のオープンに向け、県民とのワークショップ開催など、美術館と一緒に育む活動を継続する。

R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度～
基本計画 策定	基本設計	実施設計	工事(本館)		改修後 オープン	
			工事(実技研修棟)			新築等後 オープン
アンケート 意見交換	利用促進に向けたワークショップ、出前授業など					

【事業費】

総事業費 精査中

【運営体制】

民間活力の導入を含め、改修後のオープンに向け検討